フォーラム「高齢社会における文化芸術団体の役割と、新たな協働のしくみとは」

近年、総人口における 65 歳以上の高齢者の割合が 26.7%と過去最高を記録し、世界に例を見ないスピードで急速に高齢化が進んでいる日本において、生産人口の減少、医療・介護費の増大、認知症患者の増加、老人の孤立などさまざまな課題が浮かび上がっています。今後、2060 年には国民の 2.5 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となる社会が到来するとも予想されている中、国や地方自治体、医療・福祉分野、民間企業、研究機関など多様なセクターが連携し、地域社会において高齢者が生き生きと生活できる社会の実現が期待されています。

こうした超高齢社会を迎えた現在、オーケストラなどの文化芸術団体が、他セクターとどのような協働関係を築き、どういった役割を果たしていけるのかについて、日英の専門家を交えて話し合うフォーラムを開催します。

本フォーラムでは、日本と同様に少子高齢化が急速に進んでいる英国において、医療・福祉関係者や大学機関と連携しながら、介護施設の高齢者や認知症の人を対象にクリエイティブな音楽ワークショップを展開し、高齢者の生活の質向上等に大きな効果をあげている室内オーケストラ、マンチェスター・カメラータのコミュニティプログラム担当者と音楽家を招へいします。

フォーラムに先立ち、マンチェスター・カメラータの音楽家は、日本のオーケストラ楽団員を対象に高齢者との音楽プログラムを実施する際に必要な知識や技術を身に着けるトレーニングを行うほか、実際に高齢者施設にて日本の音楽家とともにワークショップを実施します。フォーラム当日は、この高齢者施設でのワークショップの成果を共有するほか、マンチェスター・カメラータの英国での取り組みを紹介するとともに、福祉施設、高齢者研究の分野より代表者が登壇し、パネルディスカッションを開催します。

《スピーカー》
ルーシー・ゲデス（マンチェスター・カメラータ　カメラータ・イン・ザ・コミュニティ　ディレクター）
日下菜穂子（同志社女子大学現代社会学部　教授）
是山康代（特定非営利活動法人オリーブの園　理事長）
柿塚拓真（日本センチュリー交響楽団　コミュニティプログラム担当）

《モデレーター》
吉本光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所　研究理事）

《開催概要》
日時：2016 年 12 月 3 日（土）　13:30～16:00（13:00 受付開始）
会場：とよなか国際交流センター　会議室 2　http://www.a-atoms.info/access/
大阪府豊中市玉井町 1-1-1-601 「エトレ豊中 6 階」
参加費：無料（通訳つき）
定員：70 名
対象：文化芸術関係者、福祉関係者、医療関係者、行政関係者など
申込方法：専用オンラインフォーム（http://bit.ly/NCentury）よりお申し込みください。

主催：文化庁、（公財）日本センチュリー交響楽団
共催：ブリティッシュ・カウンシル
協力：特定非営利活動法人　オリーブの園
※ 本事業は文化庁「平成 28 年度文化庁戦略的芸術文化創造推進事業」として実施します

お問合せ：日本センチュリー交響楽団（豊中市立文化芸術センター内）
担当：柿塚（電話 06-6864-3901）

《登壇者プロフィール》

ルーシー・ゲデス（マンチェスター・カメラータ、カメラータ・イン・ザ・コミュニティ ディレクター）
マンチェスター・カメラータがイングランド北西部地域を中心に展開しているコミュニティプログラムの責任者で、年間 24,000 人以上の市民に対し様々な音楽プログラムを提供している。マンチェスター・カメラータの音楽プログラムの特徴は、グレーター・マンチェスターの福祉・医療関係団体や医療サービス委託グループ（CCG）、マンチェスター市の高齢者を対象としたイニシアチブであるエイジ・フレンドリー・マンチェスター、音楽関係団体など、さまざまなパートナーと連携して展開していることにある。音楽を通して人々の生活の質（QoL）が向上することを目指し、さまざまなプログラムを実施しているが、そのなかでも認知症の高齢者を対象とした「ミュージック・イン・マインド」プログラムは、英国内外で広く注目を集めている。マンチェスター大学などとの共同研究によりプログラムの効果検証を行っており、参加者のコミュニケーション力の向上や、気分や精神状態の安定に貢献することが確認されている。マンチェスター・カメラータでの活動のほかに、音楽理論講師、また、英国陸軍予備軍楽隊でピアニスト、クラリネット奏者としても活動している。幅広い音楽活動を通して出会う多様な背景を持つ老若男女との関わりを原動力に、音楽を通して地域の社会変革推進に取り組んでいる。

日下菜穂子（同志社女子大学現代社会学部 教授・臨床心理士）
兵庫県西宮市出身。同志社大学卒業。関西学院大学大学院修了。博士（教育心理学）。
専門は高齢者心理学。年を重ねるほど心豊かに生きる『ワンダフル・エイジング』の実現をめざす心理的支援が研究テーマ。高齢者の心の健康づくりの「生きがい創造プロジェクト」の活動を、自治体と連携して展開。
主著：『人生の意匠ー心理・社会・超越性からのアプローチ』（ナカニシヤ出版，2016 年，共編著）、『ワンダフル・エイジングー人生後半を豊かに生きるポジティブ心理学』（ナカニシヤ出版、2011 年，単著）ほか。

是山康代（特定非営利活動法人オリーブの園 理事長）
看護師／介護福祉士／認知症ケア専門士／厚生労働省認知症サポーター養成講師。
2000 年特定非営利活動法人オリーブの園として発足し「グループホームひより」を開設。高齢者福祉に取り組む。2001 年「豊中市立柴原老人デイサービスセンター」を設置。音楽療法活動を推進。同年「グループホームひより南」を開設。2002 年女性のDV被害者保護・自立支援活動開始。2014 年「音楽療法室野の花」の活動開始。

柿塚拓真（公益財団法人日本センチュリー交響楽コミュニティプログラム担当／
豊中市立文化芸術センター開設準備室ディレクター）
福岡第一高等学校音楽科、相愛大学音楽学部（テューバ専攻）卒業。2008 年より大阪センチュリー交響楽団（当時）事務局で勤務。2013 年 1 月にオーケストラ・ホール関係者向け英国派遣プログラム（主催：ブリティッシュ・カウンシル他）に参加し、文化芸術機関による地域との連携、教育プログラムの在り方について学ぶ。2016 年 4 月より日本センチュリー交響楽団が豊中市市民ホールの指定管理者となり現職に就く。

吉本光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事）
1958 年徳島県生、早稲田大学大学院（都市計画）修了後、社会工学研究所などを経て 89 年よりニッセイ基礎研究所に所属。 東京オペラシティや世田谷パブリックシアター、いわき芸術交流館アリオス等の文化施設開発、東京国際フォーラムや電通新社屋のアートワーク計画などのコンサルタントとして活躍するとともに、文化政策、文化施設の運営や評価、クリエイティブシティ、アート NPO などに関する幅広い調査研究に取り組む。現在、文化庁文化審議会文化政策部会委員、（公社）企業メセナ協議会理事など。